

# 文学館だより

令和2年4月1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高

## うすべにに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花

大正11年、静岡県湯ヶ島温泉で詠んだ歌。毎日出かけては山桜の歌を詠み、歌集には「山ざくら」23首が掲載されており、この歌はその冒頭歌である。

『山桜の歌』収録

令和2年度がスタートいたしました。  
若山牧水記念文学館は、平成17年4月1日に開館し、本日より15年目に入ります。本顕彰会会員のみなさま、全国から応援してくださっているみなさま、厚く感謝申し上げます。全国各地からお越しくださる牧水先生を慕う方々はもちろん、県内市内の方々にもっと牧水先生の人となりや偉業をお伝えしていきたいと思っています。

節目の今年は、主要企画展を準備いたしております。  
今年度も変わらぬご支援をよろしくお願ひいたします。

## 令和2年度事業・企画展のお知らせ

※日程等変更が予想されます

日 程	主 な 内 容
4.26(日) ～6.28(日)	三浦家寄贈資料公開展 繁と敏夫～受け継がれた二人の絆～ 第1期 プロローグ 敏夫の遺したもの 寄贈資料の中から注目すべき資料を抽出し、遺墨や執筆原稿、文学仲間からの書簡をとおして、三浦敏夫の人物像に迫ります。
9.6(日) ～12.6(日)	第2期 繁と敏夫 牧水と敏夫にスポットを当て、遺墨や書簡等をとおして16年の歳月で深められた二人の絆に迫ります。
令和3年 3.14(日) ～5.30(日)	第3期 敏夫と喜志子 喜志子やその家族にスポットを当て、牧水没後も変わらず続く絆に迫ります。
	<p>およそ390点に及ぶ資料が三浦家から寄贈され、今年度公開の運びとなりました。今年度通年の主要企画展です。</p> <p>新型コロナウイルス感染予防対応で開催を見合わせており、当初の予定より開催が遅れていますが、何とぞご理解ください。なお、感染拡大を受けて日程変更等も今後予想されますので、合わせてご理解いただきますようお願ひいたします。</p> <p>若山牧水全集に収められていない手紙類、遺墨類をはじめ、二人の強き絆を知る大変貴重な資料が並びます。牧水ファンのみなさま、興味をもたれたみなさま、お近くのみなさま、感染症対策を万全にされ、ご来館ください。</p>
4月～	第10回青の國若山牧水短歌大会募集開始 一般題詠『光』
6月～	牧水・短歌甲子園 OBOG みなど展 【若山牧水記念文学館】
8.22～23	第10回牧水・短歌甲子園 【日向市中央公民館】
9.17(木)	第70回 牧水祭 【牧水生家・夫婦歌碑前、ふるさとの家】
12.13(日)	第10回青の國若山牧水短歌大会表彰式 【日向市中央公民館】
12.13(日)	第8回マスターズ短歌甲子園 【日向市中央公民館】
1.24(日)	第8回高森文夫を偲ぶ詩大会表彰式 【若山牧水記念文学館】
2月～	牧水母校作品展 【若山牧水記念文学館】

そのほか、今年は文化の祭典「国文祭・芸文祭みやざき2020」が県内26市町村で開催され、短歌オペラほか牧水関連事業が華やかに繰り広げられます。(10/17～12/6開催)

広報アンバサダーに就任した歌人 俵 万智さんが「海のあお通信3/23付」(宮崎日日新聞連載中)にて、紹介されています。

国文祭・芸文祭のアンバサダー名刺を渡す「樂しみましょう」  
俵 万智



牧水かあくん

# はると 松本温音 ちいさなこんさあと ~旅立ち~ 文学館 あのピアノでミニコンサート



「ピアノの音色、7年ぶりによみがえる(6月号)」「みんなで『しらとり』の歌を歌いました(8月号)」の掲載を覚えていらっしゃるでしょうか。

音色がよみがえったあのピアノでミニコンサートを開催しました。

## はると 松本温音 ちいさなこんさあと ~旅立ち~

日 時	令和2年3月8日(日) 13:30~
場 所	若山牧水記念文学館ラウンジ
演 奏 者	松本温音さん(3月 延岡工業高校卒業 4月から名古屋へ)
曲 名	♪ 幻想曲「さくらさくら」 ♪ ラ・カンパネラ ♪ パブリカ ほか全7曲

13年間ピアノを続けてこられたという温音さん。

「一度もやめたいと思ったことはない。児玉先生だったから続けてこられた。しばらくピアノから離れるけれど、落ち着いたら再開したい。」と話してくださいました。

コロナウイルス感染拡大を防ぐため積極的な告知が許されず、観客なしの開催となりただただ残念でしたが、教室生の友情出演(お母さまの歌あり)もあり、温かいミニコンサートとなりました。お名前のとおり澄みわたる音を聴かせていただき、ありがとうございました。帰省された折は、おかえりコンサート会場としてお待ちしています。

## 宮崎大学教育学部卒業式 閉式の辞に牧水の歌

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

(中略) 親竹は伏し枝垂れつつ若竹は直に立ちて雨に打たるる

竹の節と節の間を「世の中」の「世」と言います。この教育学部を飛び立つみなさんを、私たちは今後も伏せて枝を垂れるように陰となって、見守り続けたいと思います。教育現場では「雨に打たるる」ことも多いと思いますが、ぜひひめげることなく、「直に立ちて」、もし苦しい時にはこの母なる学び舎に顔を見せて下さい。

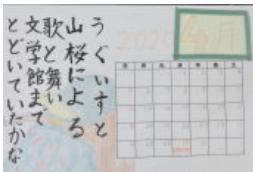
親竹は伏し枝垂れつつ若竹は直に立ちて雨に打たるる

そして、本日のこの会場でみなさんの晴れ姿を見たくても見られなかった親御さんの顔を思い浮かべ、感謝の思いをあらたに深く抱いてください。みんなの前途に幸多かれと祈ります! 本日は、誠におめでとうございました。

ツイッターより

3月24日(火)、3回に分けて行われた宮崎大学教育学部卒業式で、中村佳文教授が卒業生に送られたことばの抜粋です。中村先生は、音声表現を専門とされ、牧水研究ほか幅広く活躍されており、昨年の牧水祭では伊藤一彦館長と対談をしていただきました。ちなみに卒業生謝辞は、マスターズ短歌甲子園に出場された「はにわのマーチ」チーム吉川七菜子さんだったそうです。

## つぼやっ子5、6年生からカレンダーのプレゼント



昨年に続き、今年も坪谷小学校5、6年生からカレンダーをいただきました。一枚一枚手作りで、季節を感じる短歌が詠まれています。これまでどおりカウンターに牧水先生の歌と一緒に飾らせていただきます。ありがとうございました。

ふと見れば目の前広がる尾鈴山かがやく縁に心うばわれ 5月  
ぼたぼたとしたたる雨音牧水のとくりから垂る酒の音だろか 6月